



KAMOMI-る KAWO首-る

TOPICS

- * ロールモデル講演会
- * 出前講義@済美高校
- * 保育園たより
- * シンポジウムのご案内
- * シンポジウム参加報告

~ NEWS Letter ~ 17号 2011.11

女性研究者ロールモデル講演会(理系編) 岐阜大出身の先輩に学ぶ を開催

平成23年10月26日(水)に「女性研究者ロールモデル講演会(理系編)ー岐阜大出身の先輩に学ぶー」を開催しました。

これは、一般に、女性研究者が少ない原因の一つに先輩となるロールモデルが少なく、なかなか将来像をイメージできないことがあげられることから、ロールモデルを提示するために、本大学出身で学内外の様々な分野で活躍する女性研究者を招き、開催したものです。

連合獣医学研究科出身の近藤麻実氏(鈴木正嗣先生からのご推薦)、連合創薬医療情報研究科出身の長岡久美氏(北出幸夫先生からのご推薦)、工学部出身の加知千裕氏(海老原昌弘先生からのご推薦)の3名をお招きし、これまでのキャリアパスや大学院で学んだことが現在の職場でどのように生かされているかなどをお話ししていただきました。

講演会後に開かれた交流会では、女子学生から結婚後の研究生生活との両立について質問がなされ、講師からは「他人と比べると辛くなる。自分の基準を持って。」とのアドバイスがありました。参加した女子学生からは、「将来の姿がイメージできました。」などの声が寄せられ、自身のキャリアを考える有意義な機会となったようです。



▲会場の様子



▲交流会の様子



近藤 麻実氏 北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部環境科学研究センター 研究職員

大学院時代はツキノワグマの研究をされていた近藤氏。現在は、対象をヒグマに変え、北海道の独立行政法人の研究職員として活躍されています。クマのことを話すときの表情には、クマが大好きだという気持ちが溢れていました。講演では、卒業論文や博士論文が県や国の事業と重なったことをとても運が良かったとする一方で、それだけではなく、「出会う、そして見て、聞いて、考える」「トライする」ことの大切さ、また、すべての条件を満たす選択がないことは必然であり、自分は何が一番大切なのかを考え選ぶことが必要だと話されました。

長岡 久美氏 名古屋国際特許業務法人



「特許業務という一見研究から遠いようにも見えるかもしれませんが、研究に密着した仕事なんですよ。」にこやかに語った長岡氏。大学院時代の早い段階から特許に興味を持ち、特許に関する本を何度も読み返したり、資格取得のために学内外のセミナーを受講したり、多方面から情報を収集したりと自らアクションを起こしたそうです。現在は、プライベートも充実させつつ、弁理士となってより貢献したいと考えているそうです。自らのライフプランを明確に持ち、それに向かって行動する姿は、学生に自ら行動を起こすきっかけとなったのではないのでしょうか。



加知 千裕氏 東邦大学理学部化学科 講師

母親でもあり研究者でもある加知氏。一度、結婚を機に研究から遠ざかったものの、「やっぱり研究者になりたい」と大学院へ進学。しかし、出産を機に休学。その後の復帰についてはとても悩んだそうですが、「やめるのはいつでもできる。やれるだけやってみよう」と復学を決意。「子育てしながらの研究生生活は無理なのは?」と感じたこともあったそうですが、周りのサポートを受けて何とか乗り切り、沢山の人の理解と援助に感謝の毎日だそうです。最後に、「経験を楽しみながら、自分自身で、自分に合った生き方を見つけて」と伝えました。

第5回 サイエンス夢追い人育成プロジェクト 済美高校1,2年生を対象に出前講義を実施

平成23年10月27日(木)、応用生物科学研究科修士課程2年の北川絵里奈さんが、済美高等学校1,2年生40名を対象に出前講義を行いました。

このプロジェクトは、小中高生に身近なロールモデルとなるポスドクや女子大学院生が、研究の魅力や歩んできた道を紹介することによって、「サイエンス夢追い人」＝「科学者を志す学生」を増やすこと、また、教育経験を通して、自らの研究内容や社会的意義を見つめ直すことで大学院生の研究に対する意欲向上、スキルアップをすることを目的としたものです。

講義では、ラットを使った脂肪肝発症・抑制メカニズムの解明に向けた研究の様子や資格取得を目指して進路を選択した経緯などを話しました。講義では、時折質問を投げかけるなど生徒を惹きつける工夫が見られ、受講者に合わせた発表を実践していました。この様子は岐阜新聞(平成23年10月28日朝刊)でも紹介されました。



講義内容の紹介



応用生物科学研究科修士課程2年
北川絵里奈さん

メッセージ

迷ったら、まずやってみる！やれること、やるべきことに全力で取り組む！そして、人との出会いを大切に！

講義タイトル

健康を守るために ラットの脂肪肝発症・抑制メカニズムの検討

START!

20分
23分

45分

FINISH!

自己紹介 研究紹介

- ・脂肪肝とは？
- ・脂肪肝発症の仕組み
- ・ラットを用いた脂肪肝抑制効果の検証実験



質疑応答

現在の進路を選ぶまでの道のり

- ・小中高校時代の将来の夢
- ・なぜ理系を選んだのか？
- ・進路選択のきっかけとなった出来事
- ・現在の生活

質疑応答、アンケートの実施



学内保育園たより Part ①

運動会

平成23年10月22日(土)学内保育園「ほほえみ」は運動会を開催しました。あいにくのお天気のため学内体育館での開催となりましたが、園児33名と保護者が参加し、かけっこ、玉入れ、ダンス、親子での競技などを楽しみました。



お知らせ掲示板

男女共同参画推進シンポジウム

12月7日（水）開催

男性の立場からのワーク・ライフ・バランスや男女共同参画について考えるシンポジウムを開催します。

講師に、内閣府男女共同参画会議専門委員で、ご自身も育児休業の取得経験を持ち、現在も子育て中である渥美由喜先生をお招きし、ワークライフバランスについて実体験を交えながらお話し頂きます。

本シンポジウムが、参加した個々人にとって自身の働き方を見直し、自分自身の生活をどう設計していくかを考えるきっかけに、また、組織にとってワーク・ライフ・バランスを取り入れる意義や推進上の課題などを考える有意義な機会になればと思っています。

事前申し込みは必要ありません。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

ワークライフバランスとは？

基調講演

「男性にとってのワーク・ライフ・バランス 男女共同参画」



あつみ なおき
渥美 由喜氏 内閣府 男女共同参画会議 専門委員

「イクメンで行こう！」の著者で、ワーク・ライフ・バランスの論者として大きな注目を集める渥美由喜氏をお招き、ワーク・ライフ・バランスとは何なのか、ワーク・ライフ・バランスを進める意義などについてお話し頂きます。

プライベートでは、2児の父親でもあり、2回の育児休業取得、介護の経験をお持ちになる渥美氏のお話から、人生を豊かに送るためのヒントを見つけませんか？



国立科学博物館 女性研究推進センター 共同主催
岐阜大学 男女共同参画推進センター 共同主催
岐阜大学 男女共同参画推進センター 共同主催

岐阜大学男女共同参画推進シンポジウム
「男女共に学びやすく働きやすい大学をめざして」

日時：平成23年12月7日（水）14:00～16:00
場所：岐阜大学講堂

本日のシンポジウムは、市内の各施設や企業などと連携してワーク・ライフ・バランスについて考え、男女共同参画を進めようとする取り組みについて、専門家をお招きし、参加者の働き方を見直し、自分自身の生活をどう設計していくかを考えるきっかけに、また、組織にとってワーク・ライフ・バランスを取り入れる意義や推進上の課題などを考える有意義な機会になればと思っています。

プログラム	時間	内容	講師
開会式	14:00-14:10		林 正子 岐阜大学学長 中野 隆雄 岐阜大学副学長 藤田 裕子 岐阜大学副学長
基調講演	14:10-15:00	「男性にとってのワーク・ライフ・バランス 男女共同参画」	渥美 由喜氏
質疑応答	15:00-15:30	「男性共同参画について」	林 正子 中野 隆雄 藤田 裕子
閉会式	15:30-16:00		林 正子 中野 隆雄 藤田 裕子

入場無料
申し込み不要
予約不要(無料)
11月26日(日)10時開始
11月27日(月)10時開始

岐阜大学 岐阜県岐阜市
〒500-8777 Tel. 058-032-1118 Fax 058-032-3338 Email: gifu@staff.gifu-u.ac.jp

ハロウィンで仮装



学内保育園たより Part ②

平成23年10月26日（水）学内保育園に通う園児20名がハロウィンにちなみ仮装して、学長室、理事室（総務担当）、副学長室（男女共同参画推進担当）、総務部を訪れました。用意したバスケットから溢れんばかりのたくさんのTREATをもらい、満足顔。居合わせた職員一同、園児の可愛さに癒されました☆



男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加

10月31日（月）に筑波大学・大学会館で行われた「第9回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム」に男女共同参画推進室員が参加しました。男女共同参画学協会連絡会は科学・技術の分野において、女性と男性が共に個性と能力を発揮できる環境づくりとネットワーク作りを行い、社会に貢献することを目的として、2002年に発足。

今回のシンポジウムでは、加盟している68学協会が集まり、今後の科学技術の発展および持続可能な社会の実現に向けて必要とされる女性研究者の活用およびそのための支援策、また、震災を経験し、現在科学者らが社会から求められていることを考えるために基底テーマを「命と健康」とし、講演会やパネル討議などが行われました。



女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウムに参加

11月1日（火）、2日（水）に筑波大学・東京キャンパスで行われた「女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム」に男女共同参画推進室員が参加しました。本シンポジウムは、女性研究者支援モデル育成事業および女性研究者養成システム改革加速事業の採択機関を対象として、これまでの取組状況や問題点等の報告を通じて、今後の女性研究者支援のあり方を検討、議論することを目的として開催されたものです。

1日目は参加機関を各地区ごとに分類した上でグループディスカッションが行われ、岐阜大学は、東海・関東グループのサブリーダーを務めました。ディスカッションでは、それぞれの機関において女性研究者支援に効果的であった取り組みや運用上の問題点および克服方法について議論がなされました。東海・関東グループは、岐阜大学よりも先行して採択された機関で構成されていたため、全学的に男女共同参画を浸透させる方法などについて学ぶことができました。午後は、それぞれの地区ごとにディスカッションした内容をまとめ、全体に報告されました。報告では、地域は異なっても多くの機関で同じような問題を抱えていることが浮かび上がり、問題に対する対応方法も聴くことができました。



本学発表ポスター

2日目は女性研究者支援の効果的な取り組みを行っている、九州大学、東京農工大学、東北大学、北海道大学、名古屋大学の各大学から具体的な事例も含めて報告がありました。ここでは、女性研究者への支援と同時に、女性研究者を増やすための具体策についても報告されました。午後には、参加機関自由企画として、京都大学、広島大学、東邦大学、岩手大学・東北大学、九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク、筑波大学からそれぞれ特色ある取り組みについて報告がありました。

中国四国男女共同参画シンポジウムに参加

11月11日（金）に岡山コンベンションセンターで行われた「第3回中国四国男女共同参画シンポジウム」に男女共同参画推進室員が参加しました。本シンポジウムは中国四国地方における女性研究者支援および男女共同参画を推進し、地域の活性化につなげることを目的として開催されたものです。

シンポジウムでは、特別講演、基調講演、中国・四国地方の大学による事例紹介、パネルディスカッションとともに、地域を限定しない形でポスター・セッションの時間が設けられました。岐阜大学男女共同参画推進室は、ポスター口頭紹介およびポスター・セッションにおいて本学の取り組みを報告しました。



岐阜大学男女共同参画推進室（人事労務課男女共同参画係） URL：<http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 Tel：058-293-3378 Fax：058-293-3396 E-mail：sankaku@gifu-u.ac.jp

* 男女共同参画に関するご意見・ご要望は男女共同参画推進室へお願いします。

